



# 取扱説明書

Qolo T



# はじめに

この度は、起立訓練機 Qolo T をご購入していただき、誠にありがとうございます。本製品は、圧縮ばねの力を利用して立ち上がり動作のアシストをする立ち上がり動作のトレーニング機器です。

本取扱説明書では、本製品を安全にかつ効果的に使用していただくための方法を説明いたします。ご使用前に本説明書をよくお読みになり、正しく安全にご使用ください。また、本書はいつでも確認できるところに保管してください。

万が一不具合等ございましたら、下記までご連絡くださいますようお願い申し上げます。

連絡先

Qolo 株式会社

✉ rcr@qolo.jp

☎ 050-5211-5285（会社代表）

# 本書の見かた

本書では、以下のような記号を使って説明しています。

記号	内容
 警告	取扱いを誤ると、使用者が重傷を負う可能性があります。
 注意	取扱いを誤ると、使用者が傷害を負ったり物的損害の可能性があります。
	しなければならないことを示しています。
	してはならないことを示しています。

# 目次

はじめに	1
本書の見かた	2
1. 安全上のご注意	4
2. 製品について	6
3. 使用方法	8
3.1. 使用前準備	8
3.2. 設置・移動方法	9
3.3. 移乗	14
3.4. ベルトの装着	17
3.5. ハンドルの装着	18
3.6. 膝サポート取付 / 取外し	20
3.7. ステップ調整方法	22
3.8. モバイルバッテリーとタブレットの接続	24
3.9. アシストレベル調整	26
3.10. 作動ペダル	28
3.11. 膝可動域設定	29
3.12. バックサポートリクライニング機能	32
3.13. タブレット使用方法	34
4. 保守・点検	50
4.1. 点検箇所	50
4.2. よくある質問	51
4.3. 故障かな?と思ったら	52
5. 仕様	53

# 1. 安全上のご注意

本製品は安全性に十分配慮して設計・開発しておりますが、誤った使い方をしたり、注意事項を守らないと、人体などに損害を加える可能性があります。

## 禁忌、禁止事項

### 【禁忌・禁止】

次の者には使用しないこと

- (1) 意識障害や高次脳機能障害などにより指示に従えない者
- (2) 安静時のバイタルサインが安定していない者
- (3) 体重、大腿長、下腿長、腰幅など身体サイズが本装置にあわない者
- (4) 骨格系の変形により本装置の装着が困難な者（例：変形性膝関節症、変形性股関節症、股関節亜脱臼、これらに伴う下肢の拘縮、変形性脊椎症、側弯症等）
- (5) 心機能・呼吸機能障害によって運動制限のある者
- (6) 著しい徐脈や頻脈などコントロールされていない不整脈が存在する者
- (7) 急性期中枢型静脈血栓塞栓症がある者
- (8) 急性期の感染症と診断されている者
- (9) 下肢や体幹に易骨折性があり起立訓練を制限されている者
- (10) 妊娠しているまたは妊娠の可能性のある者
- (11) 電子制御される埋め込み型医療機器を使用する者
- (12) その他、医師が不相当と判断した者

### 【使用上の注意】

次の者への適用は、慎重に行うこと

- (1) 起立性低血圧がある者
- (2) 心機能・呼吸機能障害の治療中であるが医師の許可がある者
- (3) 静脈血栓塞栓症で治療中のもの、あるいは、下腿に限局した静脈血栓塞栓症がある者
- (4) 頭部保持が自立していない者
- (5) 骨格系の変形があるが、起立訓練に関し医師の許可があり、本装置の装着が可能な者  
（例：変形性膝関節症、変形性股関節症、股関節亜脱臼、これらに伴う下肢の拘縮、変形性脊椎症、側弯症等）
- (6) 骨粗鬆症の治療中の者
- (7) 高次脳機能障害を認めるが訓練の指示を理解している者

## 2. 製品について

### ■ 内容物の確認

本製品には本体を含む以下の内容物があります。使用開始前に不足している物品がないか、損傷箇所がないか必ずご確認ください。

万が一、不足している物があったり、損傷箇所があった場合には弊社までご連絡ください。

#### 〈内容物一覧〉

起立訓練機本体…………… 1台  
タブレット…………… 1台  
モバイルバッテリー…………… 1個  
充電器およびケーブル…………… 1式  
※タブレット、モバイルバッテリー共通



起立訓練機本体



タブレット



モバイルバッテリー



充電器およびケーブル

## ■ 各部名称

- |                 |                  |
|-----------------|------------------|
| ① 体幹ベルト         | ⑨ バックサポート        |
| ② ハンドル          | ⑩ 腰部ベルト          |
| ③ 膝サポート         | ⑪ アシストレベル調整ハンドル  |
| ④ ノブ (膝サポート)    | ⑫ リクライニングロックボタン  |
| ⑤ ノブ (セーフティベース) | ⑬ セーフティベースロックレバー |
| ⑥ 足首ベルト         | ⑭ キャスター          |
| ⑦ ステップ          | ⑮ 膝可動域設定         |
| ⑧ セーフティベース      | ⑯ 作動ペダル          |



## 3. 使用方法

### 3.1. 使用前準備

使用する前に以下の準備をしておくことスムーズにご使用いただけます。

#### 1. モバイルバッテリーの残量の確認・充電

モバイルバッテリーの残量を確認します。残量表示の点灯が1つの場合、充電をしてください。



#### 2. タブレットへの利用者情報の登録

※事前に登録を済ませておくことスムーズに訓練を開始できます。

登録方法の詳細は、[p.35 3.13.2.] の手順をご参照ください。

## 3.2. 設置・移動方法

## 3.2.1. 設置する

床が硬く平らな場所を選んで設置してください。

- ① ノブ
- ② セーフティベースのグリップ
- ③ セーフティベースロックレバー



1. キャスターのストッパーを作動させる。



ストッパー解除状態



ストッパー作動状態

2. 右手でノブ①を引っ張り、左手でセーフティベースのグリップ②を支えながら床に降ろします。

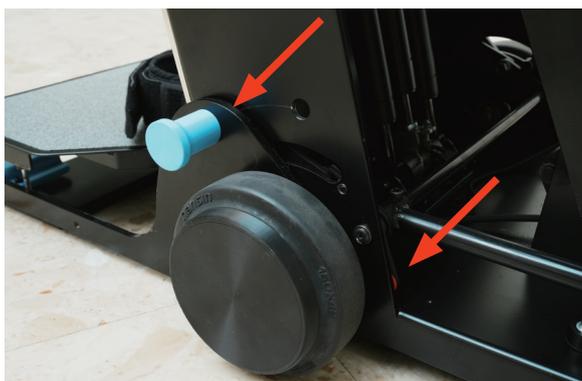
※ステップとセーフティベースの間に手を挟まないよう注意してください。



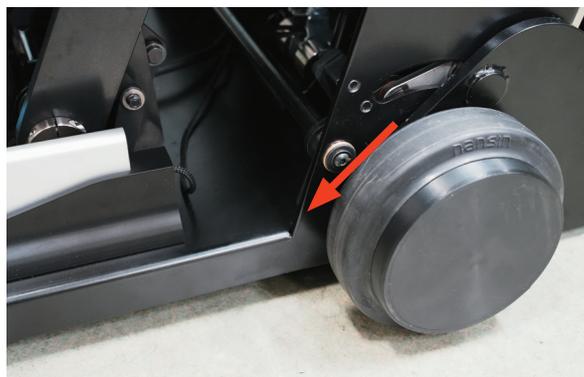
3. 後方のセーフティベースロックレバー③を下に押し込みます。ガシャンと音が鳴ってロックするまで押し込んでください。



4. ノブ①、セーフティベースロックレバー③の赤色インジケーターが両方とも隠れていることを確認してください。



右側面のセーフティベースロック赤色インジケータが隠れていることを確認してください。



 警告	<p>セーフティベースが固定されていない（赤色インジケータが見える）状態で機器を使用すると、前方へ転倒し大変危険です。</p>	
 警告	<p>床が柔らかい場所に設置すると転倒防止機能が正常に働きません。体格の大きいユーザーが勢いをつけて起立動作をした場合に、前方へ転倒する恐れがあります。</p>	
 警告	<p>床に凹凸がある場所や、傾いている場所で使用すると機器が転倒する恐れがあります。</p>	

### 3.2.2. 移動する

1. 後方のセーフティーベースロックレバー③を上引き上げます。ガシャンと音になり、セーフティーベースが床から浮いた状態になります。

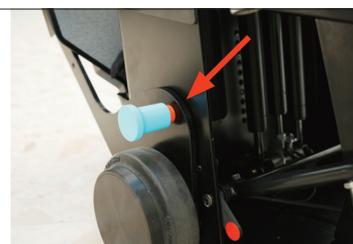


2. 右手で①のノブを引っ張り、左手でセーフティーベースのグリップを支えながら上に引き上げます。①のノブが入るところまで持ち上げてください。



注意

セーフティーベースが固定されていない（赤色インジケーターが見える）状態で機器を移動すると、セーフティーベースが不意に展開しけがをする恐れがあります。



3. キャスターのストッパーを解除する。



4. 移動をするときは、機体の前方からハンドルを押して後方へ動かしてください。

※車いすのように後方から押して移動すると、段差に引っかかった際に機体が前方に倒れる可能性があります危険です。



警告

本機器は車いすではありません。セーフティベース収納状態で人を乗せたり、人を乗せて動かしたりしないでください。転倒する恐れがあります。

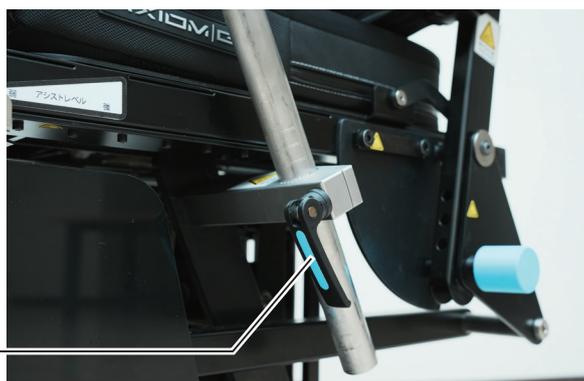
### 3.3. 移乗

#### 3.3.1. 移乗準備

セーフティベースとステップが展開状態で完全に固定されていること、座面が水平となる座位状態であることを確認してください。

レバー①を手前側に起こします。固定が緩み、ハンドルを取り外すもしくは下げることができます。

① レバー



ハンドルを取り外した状態



ハンドルを下げた状態



注意

ハンドルの先端にぶら下がらないでください。機器の破損や転倒につながる恐れがあります。

足首ベルトをほどき、ステップを空けます。  
足首ベルトの先端は機器の側面に仮止めすることができます。



### 3.3.2. 機器へ移乗する

ハンドルを取り外した（もしくは下げた）側から側方移乗します。



### 3.3.3. 機器から移乗する（使用後）

移乗開始前に必ず作動ペダルが「停止」となっていること(上がっている状態)を確認してください。



作動ペダル「停止」状態



作動ペダル「作動」状態



警告

アシストが作動したまま機器から移乗すると、意図せず座面が起き上がり大変危険です。

### 3.4. ベルトの装着

移乗後は安全のため、ベルトの装着をお願いいたします。

足首ベルト①、腰部ベルト②は必ず装着してください。体幹ベルト③は使用者の体幹機能等を考慮し、必要に応じてご使用ください。

③ 体幹ベルト

② 腰部ベルト

① 足首ベルト



## 3.5. ハンドルの装着

### 3.5.1. ハンドルを外して移乗した場合

移乗後にハンドルを装着してください。

ユーザーに合わせた適切な高さでレバーを閉じて固定します。

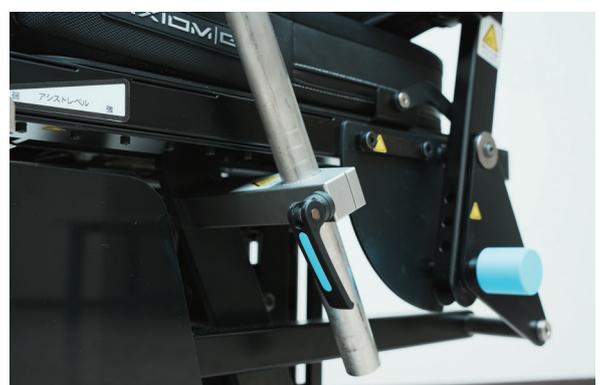
### 3.5.2. ハンドルを下げて移乗した場合

移乗後に適切な高さに調整してレバーを閉じ固定します。

### 3.5.3. レバーによるハンドル位置固定方法



ハンドル可動状態



ハンドル固定状態

レバーを回転させ、レバーが閉じられる程度まで締め込みます。



手のひらでレバーをフレーム側に倒して固定します。このとき、手のひらに薄く跡が残る程度の力が目安です。

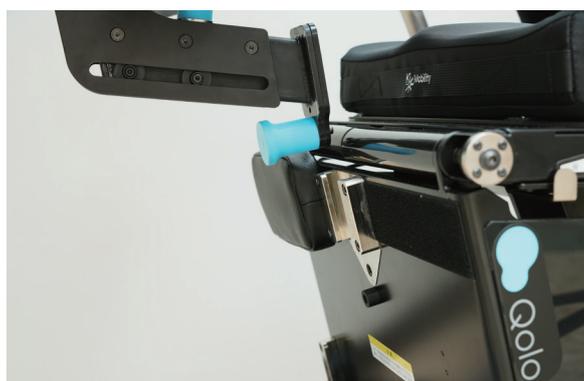
固すぎてレバーが倒れない場合は、レバーを反時計方向へ少し緩めてから再度試します。



## 3.6. 膝サポート取付 / 取外し

### 3.6.1. 取付

1. 機体前方の固定部に膝サポートを上方から下方へ挿入します。“カチッ”と音が鳴るまで下方へスライドさせ、固定してください。固定後に上下へ動かして抜けないことを確認してください。  
※説明のため片側のクッションを取り外して撮影しています。

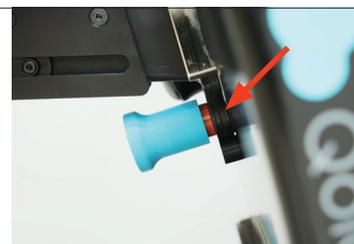


2. 右図のノブを上へ優しく引きながら、膝サポートの前後位置を調整します。  
膝サポートを前方に引き出して伸ばしておくと、取付しやすくなります。



警告

膝サポートが固定されていない（ノブの赤色インジケーターが見える）状態で機器を使用すると膝サポートが脱落するおそれがあり大変危険です。



### 3.6.2. 取外し

膝サポート下部にあるノブを前方へ引っ張り、膝サポートを上方に引き上げて取り外します。



### 3.7. ステップ調整方法

ステップ中央の水色のノブを手前に引っ張りながら、ステップを上下にスライドさせ高さを調整してください。ノブを戻し、固定穴と噛み合わせることでステップの高さを固定できます。



ステップを下げた状態



ステップを上げた状態



警告

ノブが戻っていない（赤色インジケーターが見える）状態で立ち上がると、ステップが落下して大変危険です。



注意

下肢の重みが掛かったままノブを引くとステップが落下し手を挟む恐れがあります。ステップの高さを調整する際には、ステップをしっかり支えた状態でノブを操作してください。

ステップの高さは、膝サポートを装着した際に、膝蓋骨の下縁と膝サポートの上縁の位置が一致することが目安です。



注意

膝サポートを装着した状態でステップの高さを調整する場合は、膝サポートを前方に引き出した状態で操作してください。  
膝サポートを前方に引き出しても使用者の膝が膝サポートに触れている場合は、膝サポートを外して操作してください。  
膝サポートと膝が触れた状態でステップを調整すると擦過傷などのけがの原因となる可能性があります。

### 3.8. モバイルバッテリーとタブレットの接続

1. モバイルバッテリーの電源を入れます。残量表示の点灯が1つの場合、充電をしてください。

電源ボタン



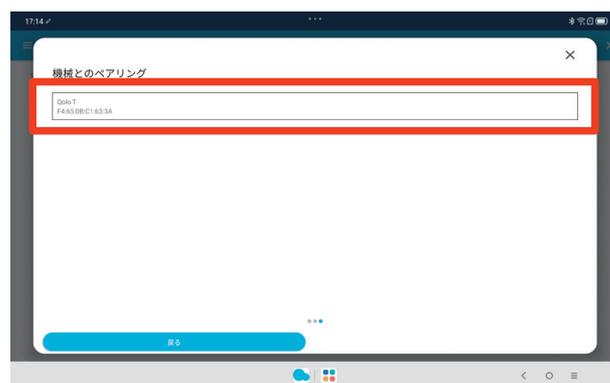
2. モバイルバッテリーの電源ボタンを上にして矢印の方向（機体後方から前方）へ差し込んでください。



3. モバイルバッテリーを差し込むと付属のタブレットと自動で接続します。正常に接続が完了した場合、タブレットメニュー画面にて“接続済”と表示されます。



4. 自動で接続が完了しない場合は、本体の通信 ON ボタンを押し、タブレットホーム画面上部の接続状況横の“>”マークをタッチし、機器とのペアリング画面に表示される“Qolo T”、をタップしてください。



### 3.9. アシストレベル調整

タブレットの表示を確認しながらアシストレベルを調整します。初回の使用時など、適切なアシストレベルがわからない場合は、弱い設定から開始してください。アシストレベルを調整後、作動ペダルを操作してください。



時計周り：アシストレベル増加

反時計周り：アシストレベル減少

アシストレベル調整ハンドルの操作後は、先端を下に向けてください。

#### 〈アシストレベル目安ゲージ〉



注意

アシストレベル調整ハンドルは、座位姿勢のときに操作してください。  
座位姿勢以外のときに操作すると機器が破損する恐れがあります。



注意

アシストレベル調整ハンドルの操作後は、先端を下に向けてください。  
そのまま立ち上がると、ハンドルがバックサポートに干渉します。

### 3.10. 作動ペダル

下へ踏み込むとアシストが作動し、上へ上げると座面の角度が固定されアシストが停止します。水平（0度）から完全伸展（70度）の範囲内の10度間隔で座面の角度を固定できます。



作動ペダル「停止」状態



作動ペダル「作動」状態



警告

移乗する際は、アシスト動作を停止してください。アシストが作動したまま機器から移乗すると、意図せず座面が起き上がり大変危険です。



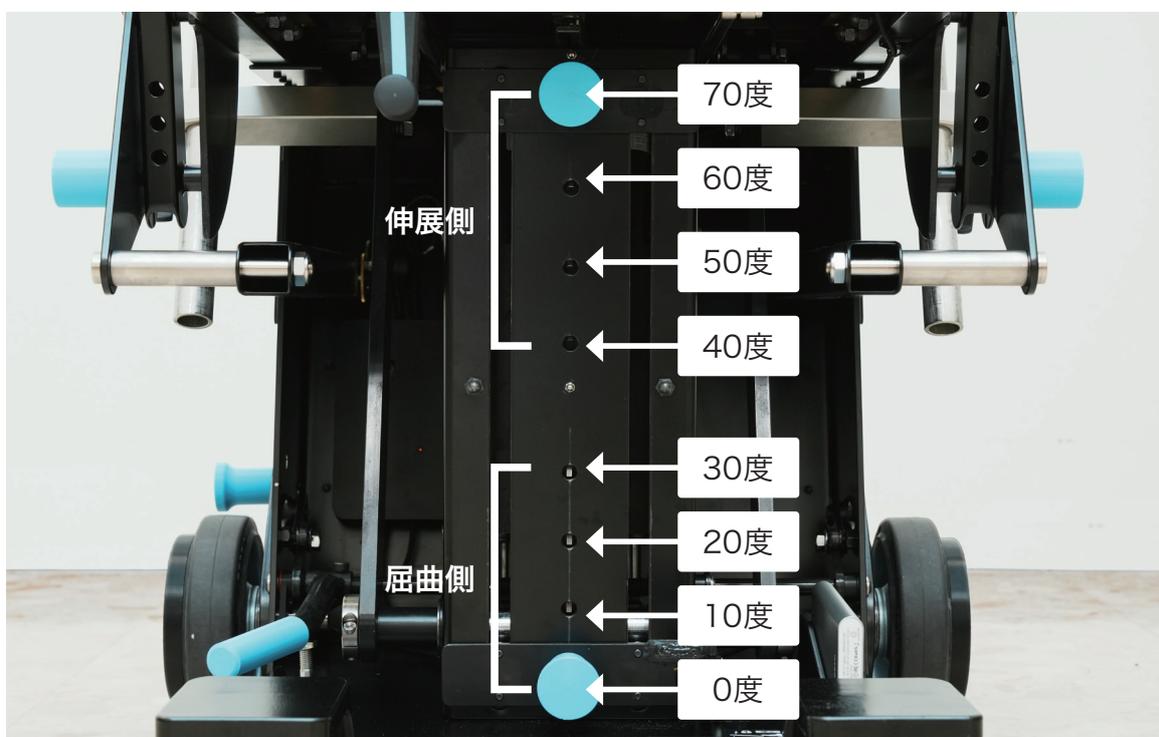
注意

人が乗っていないときにアシスト動作ペダルを操作しないでください。座面が起き上がり大変危険です。セーフティベースが格納されている状態で座面が起き上がると機器が転倒します。

### 3.11. 膝可動域設定

膝可動域を設定し膝屈曲制限、伸展制限の調整をすることが可能です。

最大の可動域は、座面が水平（0度）から70度伸展する範囲です。



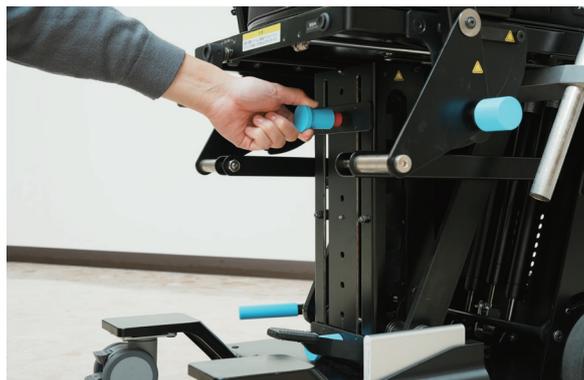
### 3.11.1. 調整方法

動作ペダルを上げてアシストを停止します。  
水色の設定ノブを手前に引き、上下にスライドさせて膝可動域を設定します。



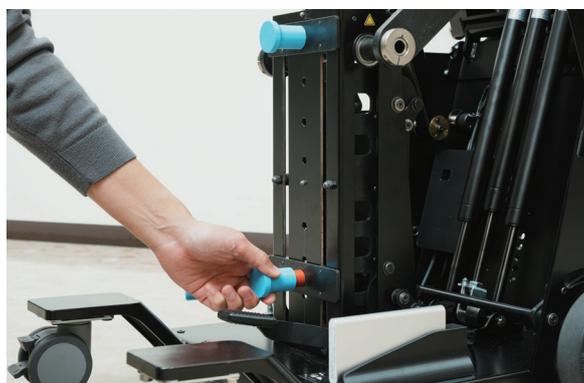
#### 〈立位の膝伸展制限方法〉

座位の状態で動作ペダルを上げてアシストを停止します。上側のノブを手前に引き、伸展制限をしたい角度にノブの位置を変更します。設定後、ノブがしっかりとロックされていることを確認してから、動作ペダルを下げてアシストを再開します。



#### 〈座位の膝屈曲制限方法〉

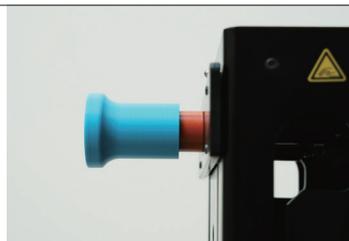
立位の状態で動作ペダルを上げてアシストを停止します。下側のノブを手前に引き、屈曲制限をしたい角度にノブの位置を変更します。設定後、ノブがしっかりとロックされていることを確認してから、動作ペダルを下げてアシストを再開します。





警告

ノブがロックされていない（右図）状態で  
使用すると、意図せず可動域設定が拡大し  
関節が過伸展する恐れがあります。



警告

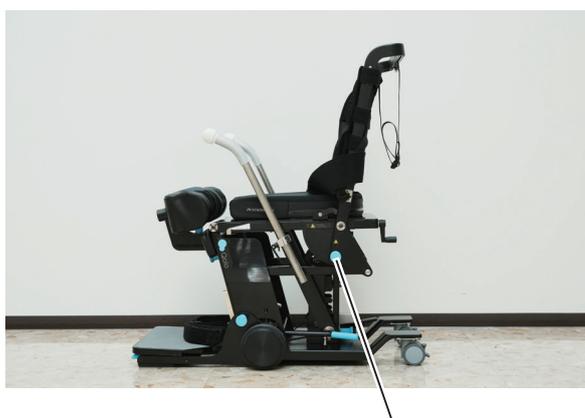
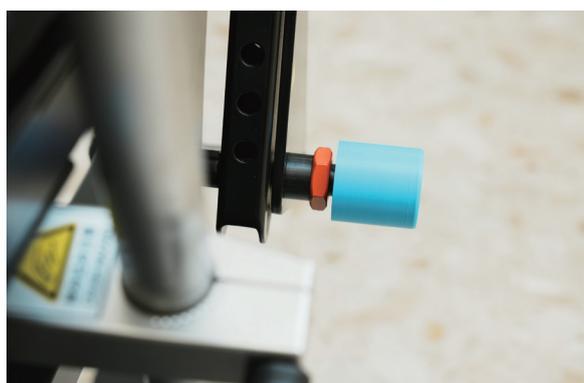
設定ノブを操作するときは作動ペダルでアシストを停止してくださ  
い。設定ノブを操作したときに不意に動作して危険です。

### 3.12. バックサポートリクライニング機能

バックサポート構造下部の左右にある水色のリクライニングロックボタンを押すとバックサポートを後方へ倒すことができます。

起立性低血圧が発生した際などにご利用いただけます。

※オプションとしてヘッドレストの装着が可能です。



リクライニングロックボタン





警告

必ずバックサポートを支えながら左右のリクライニングロックボタンを操作してください。勢いよくバックサポートが後方へ倒れて危険です。

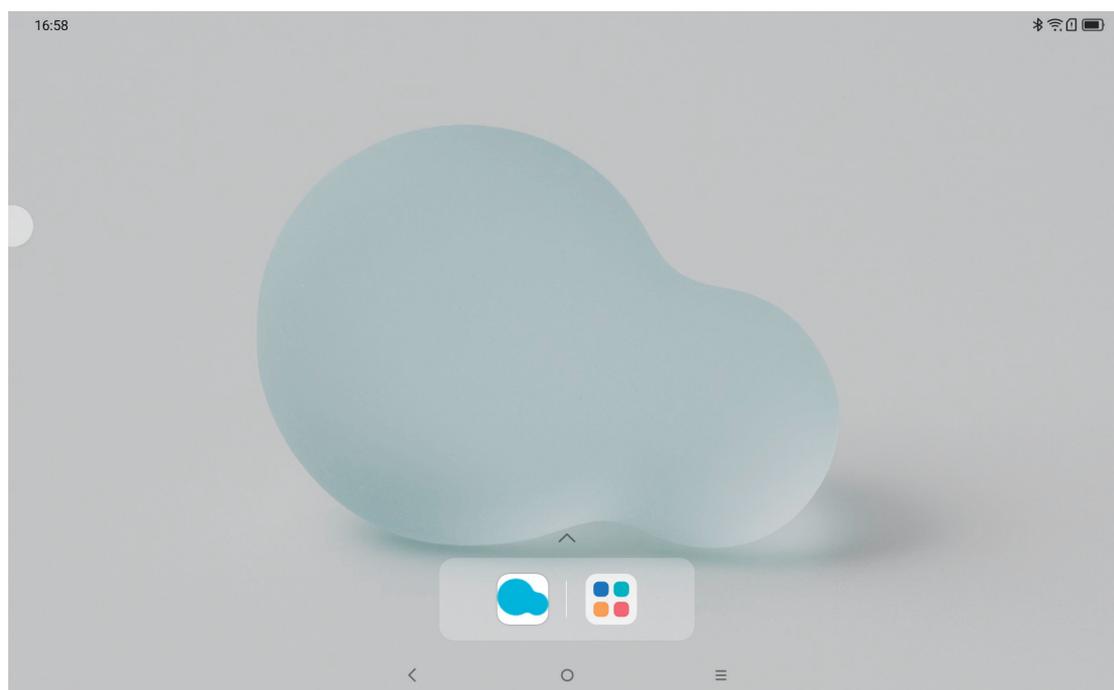


警告

バックサポートがリクライニング状態で、バックサポートに座らないでください。機体が後方へ転倒し、けがや機器破損につながり危険です。

### 3.13. タブレット使用方法

情報保護のため、初めにタブレットの暗証番号を設定することをおすすめします。  
アプリを使用するには、Qolo のアイコンをタップしてアプリを起動します。



## 3.13.1. ホーム画面



## 3.13.2. 利用者情報入力

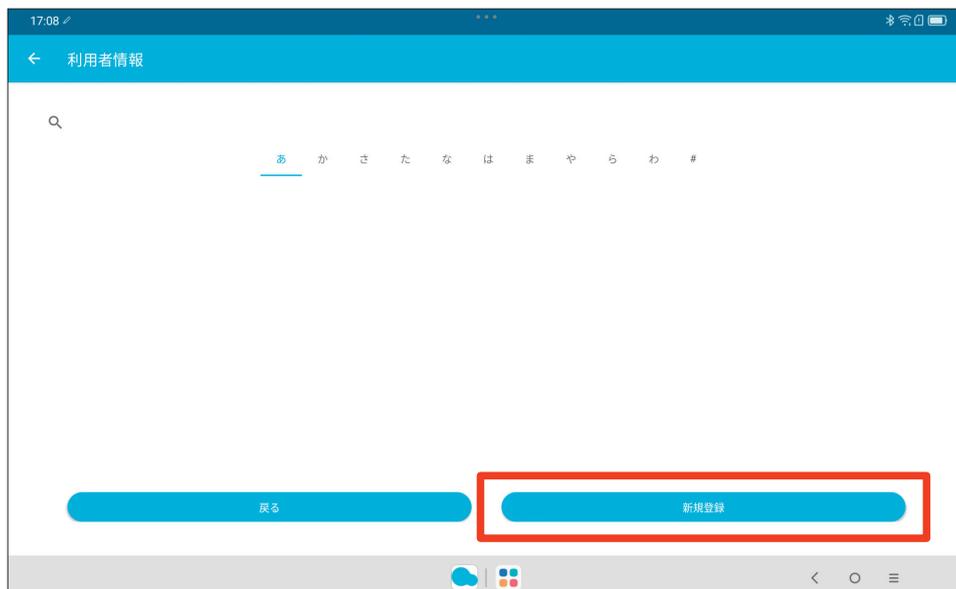
1. 利用者を登録 / 修正する場合は利用者登録 / 修正をタップします。



2. 利用者情報を選択します。



3. 新規登録を選択します。



4. 利用者情報を入力後、完了をタップします。

17:09

← 利用者情報

あ か さ た な は ま や ら わ #

利用者氏名 佐藤 誠 Qoloへの個人情報提供：同意なし  
同意撤回

ふりがな さとう まこと

性別  男性  女性

生年月日 (昭和45年) 1970 年 06 月 10 日

身体情報 身長 170 cm 体重 70 kg

疾患 脊髄損傷 回復期 NLI胸髄(T10-12) 完全麻痺

自立度 座位保持 自立 立位保持 介助 歩行 介助

完了

5. 一度登録した利用者を選択し、修正ボタンから情報修正 / 削除することも可能です。

17:10

← 利用者情報

あ か さ た な は ま や ら わ #

利用者氏名 佐藤 誠 Qoloへの個人情報提供：同意なし  
同意撤回

ふりがな さとう まこと

性別  男性  女性

生年月日 (昭和45年) 1970 年 06 月 10 日

身体情報 身長 170 cm 体重 70 kg

疾患 脊髄損傷 回復期 NLI胸髄(T10-12) 完全麻痺

自立度 座位保持 自立 立位保持 介助 歩行 介助

戻る 修正 アーカイブ

### 3.13.3. 訓練の実施

1. モバイルバッテリーの電源を入れます。残量表示の点灯が1つの場合、充電をしてください。

電源ボタン



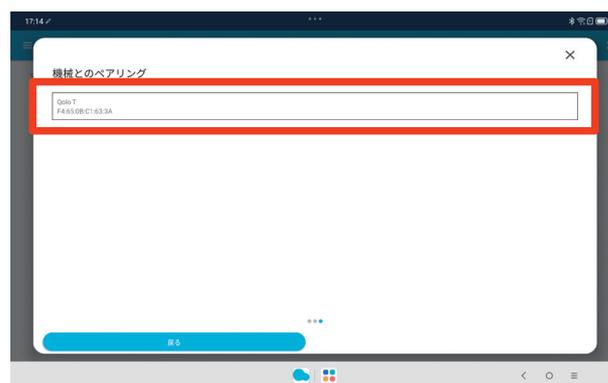
2. モバイルバッテリーの電源ボタンを上にして矢印の方向（機体後方から前方）へ差し込んでください。



3. モバイルバッテリーを差し込むと付属のタブレットと自動で接続します。正常に接続が完了した場合、タブレットメニュー画面にて“接続済”と表示されます。



4. 自動で接続が完了しない場合は、本体の通信 ON ボタンを押し、タブレットホーム画面上部の接続状況横の“>”マークをタッチし、機器とのペアリング画面に表示される“Qolo T”、をタップしてください。



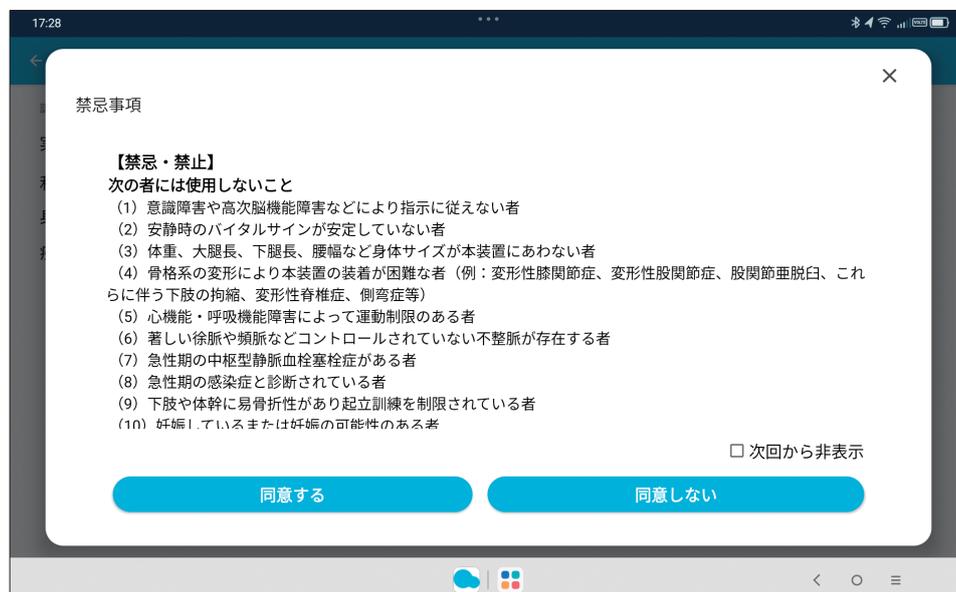
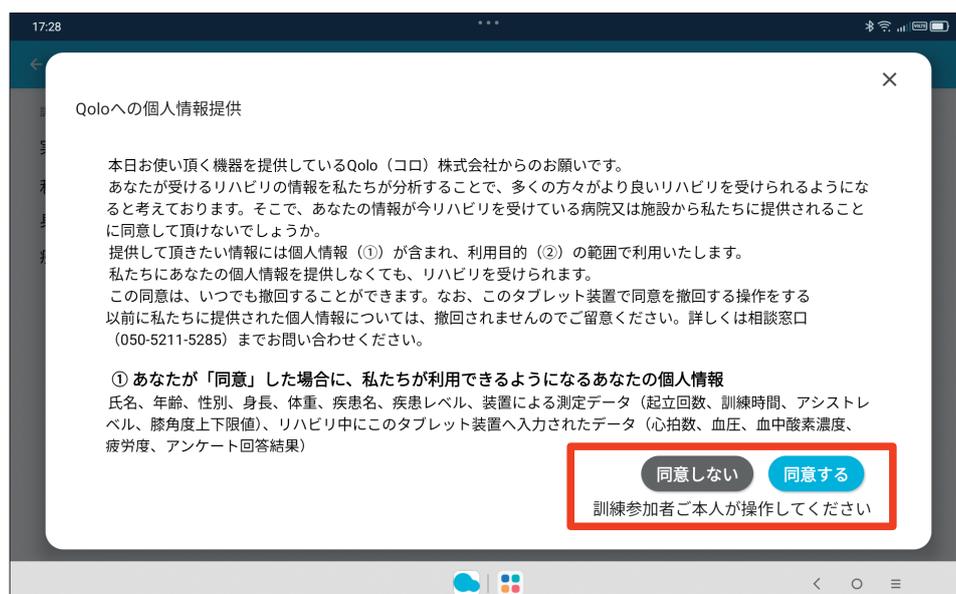
5. リハビリをタップします。



6. 利用者選択後、次へをタップします。必要に応じて血圧情報等を入力可能です。



## 7. 禁忌事項を確認し、左下の同意するをタップします。

8. 第三者情報提供に関する文章確認後、同意しない / 同意するのどちらかを選択してください。  
(どちらを選択しても訓練可能です) 利用者様ご本人が選択、操作してください。

情報提供に同意した後であっても、利用者情報の修正画面で同意撤回可能です。

17:38

← 利用者情報

あ か さ た な は ま や ら わ #

利用者氏名 佐藤 誠 Qoloへの個人情報提供：同意あり  
同意撤回

ふりがな さとう まこと

性別  男性  女性

生年月日 (昭和45年)1970 年 06 月 10 日

身体情報 身長 170 cm 体重 70 kg

疾患 脊髄損傷 回復期 NLI胸髄(T10-12) 完全麻痺

自立度 座位保持 自立 立位保持 介助 歩行 介助

削除 完了 アーカイブ

9. ベルト、膝サポートが装着されていることを確認し、チェックを入れてから訓練開始をタップします。

17:28

← 装着確認

訓練前確認

1. (必須) 機体側で下記3種類のベルト類が装着されていることを確認してください。  
確認完了後、をタップしてください。全てタップしないと訓練を開始できません。

足首ベルト  腰ベルト  膝サポート

最終リハビリの場合は、左側のボックスをタップしてチェックを入れてください。

訓練開始

アシストレベル：112（最小）－ 245（最大）

身長 / 体重別のアシストレベル目安

		体重 (kg)						
		40	50	60	70	80	90	100
身長 (cm)	145	112	112	124	137	149	162	174
	155	112	119	133	146	160	174	188
	165	112	126	141	156	172	187	202
	175	116	133	149	166	183	199	216
	185	122	140	158	176	194	212	230
	190	125	143	162	181	200	218	237

10. アシストレベル、立位角度（膝可動域上限）を調整してください。

適切なアシストレベルが不明な場合は、アシストレベルの下に表示される目安を参考に機器側のアシストレベル調整ハンドルを操作して設定してください。

立位角度（膝可動域上限）は利用者の関節可動域に応じて機器側で設定した後に、設定値が表示されていることを確認してください。



機器側で膝可動域が正常に設定されていない場合には、お知らせが表示されます。

お知らせが表示された場合は、[p.30 3.11.1.]の手順を参照して機器側で膝伸展制限角度を設定してください。



11. 訓練を開始すると起立回数や時間、履歴などが確認できます。

「情報を入力する」ボタン：訓練中の任意の時点での血圧、心拍数、酸素飽和度、修正ボルグスケールを入力し記録することができます。「情報を入力する」をタップすると入力モードに入り、「入力を完了する」をタップすると入力値が保存されます。

「履歴情報を確認する」ボタン：訓練中のアシストレベルの推移や、手動で入力した情報の履歴を確認することができます。

「アンケートを入力する」ボタン：製品改良を目的とした任意のアンケートに回答することができます。

「訓練を終了する」ボタン：訓練メニューを終了し、訓練情報がファイルに記録されます。



12. 訓練画面から「履歴情報を確認する」をタップすると、訓練中のアシストレベルの推移や、手動で入力した情報の履歴が表示されます。

訓練画面へ戻るには、右下の“<”をタップしてください。



13. 訓練画面から「アンケートを入力する」をタップすると、任意のアンケートに回答することができます。入力して頂いた内容は、今後の製品開発に役立てて参りますのでご要望がございましたらアンケートにご記入ください。「訓練画面に戻る」をタップすると訓練画面に戻ります。

17:29

Q1. スタッフ何名で起立訓練を実施しましたか？

Q2. 訓練中応援を呼びましたか？

Q3. 利用者様に、有害事象はありましたか？

Q4. 使用中の機器トラブルなどありましたか？

Q5. 座位移行にアシストしましたか？

Q6. その他の特記事項、工夫した点などございましたら、ご記入くださいませ。

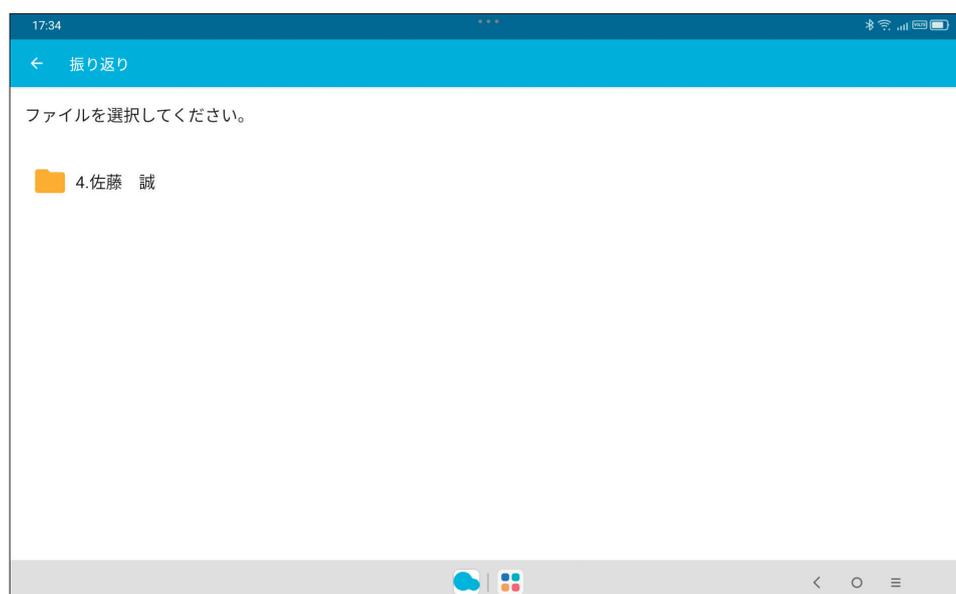
17:29

## 3.13.4. 訓練結果の振り返り

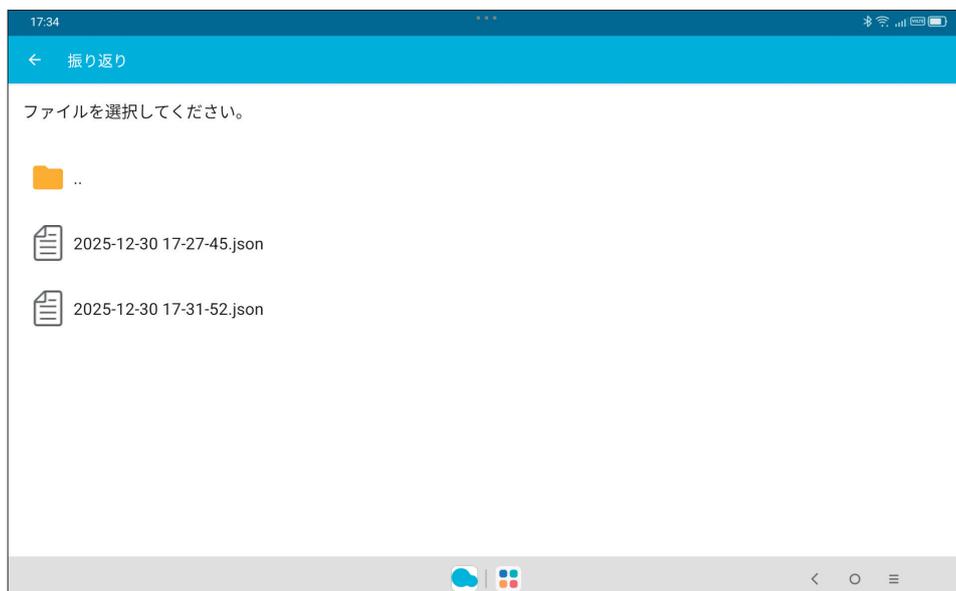
1. “振り返り”を選択します。



2. 訓練結果を振り返る利用者をタップします。



3. 「年 - 月 - 日 時 - 分 - 秒」の形式で訓練ごとの結果が表示されます。ファイル名をタップすると訓練の記録を閲覧することができます。

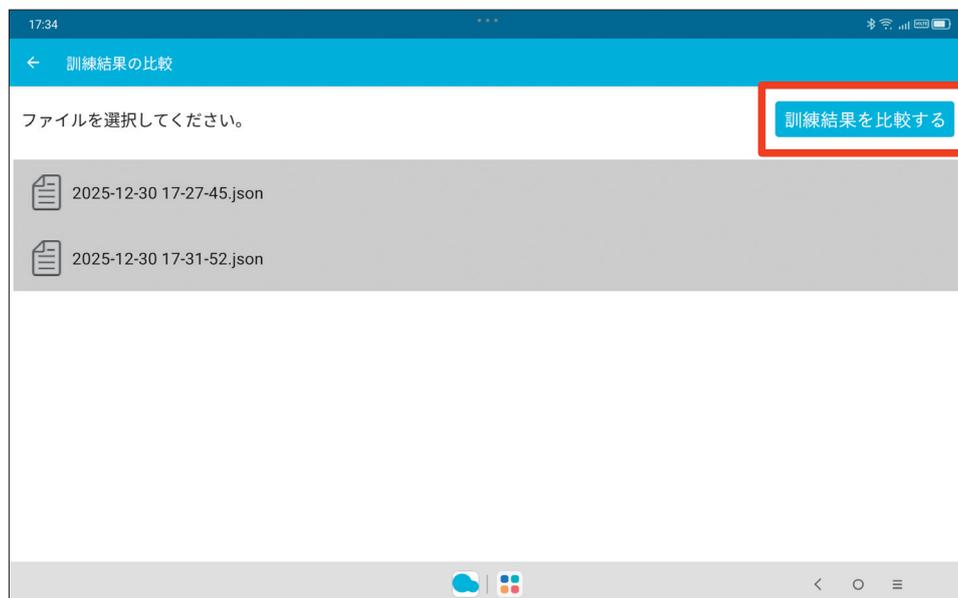


4. 起立回数や訓練時間、各起立動作の所要時間などを確認できます。

「訓練結果を比較する」をタップすると、異なる日に実施した訓練を含む、複数の訓練結果を並べて比較し、起立時間、起立回数、アシストレベルの推移を確認することができます。



5. 訓練結果の比較メニューでは、比較対象とする複数のファイルを選択し「訓練結果を比較する」をタップします。



訓練結果の比較画面では、起立時間、起立回数、アシストレベルの推移を確認できます。



## 4. 保守・点検

### 4.1. 点検箇所

安全に使用するため、本機器を使用する前に下記の点検を行ってください。

点検箇所	項目
セーフティベース	ノブ、セーフティベースロックレバーがロック位置となっている。 [p.10 3.2.1.4.] (赤色塗装が見えない)
ステップ	正面のつまみがロック位置となっている。 [p.22 3.7.] (赤色塗装が見えない)
ハンドル	レバーを閉じ固定されている。 [p.18 3.5.] (ハンドルが伸縮、回転しない)
膝サポート	機体に固定され、正面のノブがロック位置となっている。 [p.20 3.6.1.] (挿入時カチッと音が鳴り、押し引きで抜けない)
アシストレベル 調整ハンドル	調整後、ハンドル先端が下側を向いている。 [p.26 3.9.]
膝可動域制限	立位、座位どちらも制限ノブが固定されている。 [p.30 3.11.1.] (赤色塗装が見えない、タブレット画面に制限角度が表示されている)
バックサポート	リクライニングロックボタンがロック位置となっている。 [p.32 3.12.] (赤色塗装が見えない)
タブレット	十分に充電されており、機体と接続されている。 [p.24 3.8.]
モバイルバッテリー	十分に充電されており、電源が入っている。 機体に正しく差し込まれている。 [p.24 3.8.]
ベルト	足首 (必須)、腰部 (必須)、体幹 (任意) のベルトを装着している。 [p.17 3.4.]

## 4.2. よくある質問

Q: 立ちやすいが、座りにくい。

A: アシストレベルを弱めてください。もしくは、バックサポートを押し下げるなどして着座動作をアシストしてください。

Q: 着座動作を補助する際、どこを持てばよいか。

A: 挟みこみ注意シール周辺を避け、座面後方またはバックサポート左右のフレームを持ってください。

Q: 膝可動域制限（立位側）を最大にしても、膝が伸びきりません。

A: ユーザーの安心感および安全性を考慮し、膝は完全伸展から20度屈曲した姿勢を上限としております。

Q: 起立動作のときに、後ろのキャスターが少し浮いているのですが。

A: 勢いよく起立動作をすると、後輪がわずかに浮きますが安定性に問題はありません。  
アシストレベルを弱めるか、上体姿勢をコントロールして体幹前傾量を浅く調整することで起立の勢いが抑えられ、後ろのキャスターの浮き上がりを抑制できます。

Q: ステップの高さは何を基準にして調整すればいいですか。

A: 大腿が座面と水平になる位置に大まかに調整し、膝サポートと膝の接触具合に応じて微調整してください。膝サポートと膝の位置関係は p.22 3.7. を参照してください。

Q: アシストレベル調整ハンドルが回しづらい、回すためにかなり力が必要なのですが、どうすればいいですか。

A: 座位状態（座面が水平）でアシストレベル調整ハンドルを操作してください。  
それでもハンドルを回すために大きな力が必要な場合は、アシストレベルが最小または最大に到達している可能性があります。アシストレベルの目安ゲージ（p.26 3.9.）を確認してください。  
そのままハンドルを回すと破損の危険があります。

### 4.3. 故障かな？と思ったら

症状に応じて対応しても正常に動作しない場合や、下記の症状以外の不具合が疑われる場合は、サポート窓口までお問い合わせください。

[サポート窓口] Qolo 株式会社   ✉ rcr@qolo.jp   ☎ 050-5211-5285（会社代表）

症状	原因	対応
立位制限付近でキャスターが浮く	立ち上がる勢いが過剰な可能性があります。	使用者の体幹前傾量を小さくすると、浮く量が減少します。特に立位に到達する直前に、体幹をなるべく直立にしてみてください。
起立動作または着座動作のときに異音が発生する	摺動部での摩擦音の可能性があります。	金属同士が擦れるような異音（例：ガリガリ、ゴリゴリ、ギシギシ）がある場合には、動作と異音の様子が見える動画を撮影頂き、サポート窓口までご連絡ください。
ハンドルの高さ方向の調整が難しい	ハンドル、もしくはハンドル保持部が損傷している可能性があります。	操作の様子が見える動画を撮影頂きサポート窓口までご連絡ください。

## 5. 仕様

### ■ 本体

製品名称	Qolo T
適応体重	40 ~ 100kg
適応身長	145 ~ 190cm
座面高	560mm
座面可動範囲	0度（水平）～70度
使用環境	屋内 20～30℃（結露なきこと） 硬く平らな床
保管環境	屋内 0～40℃ 直射日光、多湿を避ける
寸法	幅 610mm 奥行き 970mm（セーフティベース格納時 900mm） 高さ 1,073mm
重量	87kg
標準使用年数	5年
製造者名	Qolo 株式会社 〒305-0006 茨城県つくば市天王台 1-1-1 産学リエゾン共同研究センター棟 203 室

